

稲・麦・大豆かわら版

～麦類編(ほ場準備・適期播種)～

2026.10.20 発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部 0287-43-2318
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

年内の栽培ポイント

- ①11～1月は気温が高い予報です。基準播種期間内の後半に播種をしましょう！
- ②播種前に心土破碎と額縁明きょを行い、排水対策を徹底しましょう！
- ③適期播種を行い、年内3～4.5葉程度を確保して、麦踏みを実施しましょう！

1 今後の3か月予報(11月～1月 10月20日気象庁発表)

○11月の気温は、高い確率60%となっている。

○暖冬が予想されるので、なるべく播種適期内の後半に播種しましょう。

○基準播種期間：矢板市・塩谷町→11/1～11/15

さくら市・高根沢町・那須烏山市・那珂川町：11/6～11/20

気温、降水量の各階級の確率（％）					
気温	関東甲信地方	11月～01月	10	30	60
		11月	10	30	60
		12月	20	30	50
		01月	20	30	50
降水量	関東甲信地方	11月～01月	20	30	50
		11月	20	30	50
		12月	20	30	50
		01月	20	30	50

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 排水対策<心土破碎&額縁明きょの設置>



(左) 排水対策なし

(右) プラソイラ+明きょ

<排水対策のポイント>

○麦は全栽培期間を通じて湿害を受けやすい。

○排水良好なほ場を選定する。

○プラソイラ等による心土破碎

→浸透排水性の改善

○ほ場周囲の排水溝(額縁明きょ)の設置

→地表水の早期排水

※排水溝は排水路につなげておく

3 土づくり

①土壌が酸性化すると収量に大きく影響する。播種前にpH6.5～7.0を目標に、苦土炭カルや苦土消石灰を施用する。

※標準施用量：苦土炭カル 60～100kg/10a

②良質堆きゅう肥の施用は、地力向上・微量要素の供給に加え、通気性・保水性の改善、地温上昇の効果が期待できる。

※目安施用量：牛ふん堆肥 1,000kg/10a

③目標作土深は20cmとし、数年かけて徐々に目標の作土深とする。

④畑地の連作ほ場はマンガン欠乏による生育不良が散見される。対策として、硫酸マンガン₂を10kg/10a程度施用すると改善する。

4 適期播種＜年内3～4.5葉(積算温度300～450℃)を確保＞

○矢板市・塩谷町：11/1～11/15

○さくら市・高根沢町・那須烏山市・那珂川町：11/6～11/20

○基準播種期間内での播種を基本に、気象庁の長期予報等を参考に播種をする。

○倒伏防止のため、播種深度は2～3cmとし、極端な浅播きは避ける。

【暖冬の場合】生育促進 → 春先に凍霜害 → 二段穂発生で品質低下

⇒被害軽減のため、年内に3～4.5葉期程度を確保し、根張りを十分にさせることが重要！

適期より遅れた場合の影響	適期より早い場合の影響
・凍上害が発生しやすい ・分けつ数、穂数が少なくなる	・春先の凍霜害を受けやすい ・整粒歩合が低く、容積重が軽くなる

5 麦踏み＜年内1回、年明け～茎立期直前までに2回＞

○年内1回＋年明け～茎立期直前までに2回の計3回以上麦踏みを行う。

○穂揃いを良くするため、必ず茎立期直前に麦踏みを行う。

○作業は土壌表面が乾いている（靴の裏に土がつかない程度）ときに実施する。

他にも①分けつ増加、②根張りを良くする、③茎葉汁液濃度を高めて耐寒性を増大させる、④凍上害の防止、⑤暖冬年での茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避するなどの効果があります！



6 推奨作付け体系

水稻・麦・大豆を組み合わせた2年3作の輪作体系を取り入れ、労働時間の平準化を行い、経営改善を図りましょう！

【栽培スケジュール（2年3作）】 ※麦・大豆作付けほ場

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目		(ほ場準備)								(ほ場準備)		麦
2年目			麦		(ほ場準備)			大豆				(ほ場準備)

＜年間労働時間の比較＞

